東北地方

名前

問1　東北地方の中央を走る奥羽山脈を挟んだ、日本海側の秋田市と太平洋側の宮古市の気候の違いについて説明した文として最も適切なものを1つ選びなさい。（2022年 宮崎県公立入試 類似）

1. 冬の降水量は季節風の影響を受ける秋田市の方が多く、夏の平均気温はやませの影響を受ける宮古市の方が低い。
2. 冬の降水量も夏の平均気温も、日本海側に位置する秋田市の方が低い。
3. 年間を通じた降水量は宮古市の方が多く、夏の平均気温は秋田市と宮古市でまったく同じである。
4. 冬の降水量は太平洋側の宮古市の方が多く、夏の平均気温は秋田市の方が低い。

問2　東北地方に位置する宮城県の県庁所在地であり、東北地方で唯一の政令指定都市として、地方全体の経済や行政の中枢機能を担っている都市の名称を選びなさい。（2017年 鳥取県公立入試 類似）

1. 福島市
2. 盛岡市
3. 宮城市
4. 仙台市

問3　東北地方の夏において、冷たく湿った北東風が吹き込み、奥羽山脈の東側で霧や低い雲が発生して低温や日照不足が続くことがあります。このような気象条件によって、米などの農作物の生育が妨げられる被害を何といいますか。（2021年 群馬県公立入試 類似）

1. 冷害
2. 塩害
3. 干害
4. 公害

問4　岩手県北部に源を発し、奥羽山脈と北上高原の間を南下して宮城県へと流れ、仙台平野を通って太平洋に注ぐ東北地方最大の河川を何といいますか。（2016年 和歌山県公立入試 類似）

1. 米代川
2. 最上川
3. 北上川
4. 阿武隈川

問5　東北地方などの農業において、安価な輸入農産物との競争が激しくなる中、国産品の価値を高めて差別化を図るための取り組みが重視されています。このような戦略の内容として最も適切な説明はどれですか。（2021年 香川県公立入試 類似）

1. 大規模な機械化を徹底的に推し進め、輸入農産物と同等の低価格を実現することのみに専念する。
2. 農薬の使用を減らして安全性を向上させ、生産者の情報を消費者に公開することで信頼を獲得する。
3. 輸送コストを削減するために、都市部の消費地から離れた地域での農業生産をすべて停止する。
4. 海外から安価な種苗を大量に導入し、栽培にかかる初期コストを極限まで抑えて生産量を増やす。

問6　冬の降水量について、日本海側に位置する秋田市が、太平洋側に位置する宮古市よりも顕著に多い理由として最も適切な説明はどれですか。地形と風の影響に着目して選びなさい。（2026年 福岡県公立入試 類似）

1. 冷涼な北東風であるやませが奥羽山脈を越え、日本海側に水分をもたらすため
2. 暖流の対馬海流の影響で上昇気流が発生し、奥羽山脈の西側で雨が降るため
3. 夏に吹く南東の季節風が奥羽山脈に遮られ、日本海側でフェーン現象が起こるため
4. 湿った北西の季節風が奥羽山脈にぶつかり、日本海側に雪を降らせるため

問7　東北地方の太平洋側沖合では、暖流である黒潮と寒流である親潮が出会う「潮目」が形成されます。この潮目が魚の集まる絶好の漁場となる理由について、正しく説明しているものを、次のうちから選びなさい。（2025年 徳島県公立入試 類似）

1. 寒流に含まれる塩分濃度が暖流によって薄められ、淡水魚と海水魚の両方が繁殖できるようになるため。
2. 寒流が運ぶ豊富な栄養分と暖流の温暖な環境により、魚の餌となるプランクトンが大量に発生するため。
3. 暖流と寒流の水圧の差によって強い沈降流が発生し、海底の大きな魚が浮上してくるため。
4. 暖流と寒流が衝突することで水温が常に一定に保たれ、魚が産卵するための巣を作りやすくなるため。

問8　東北地方に位置する秋田県の農業は、全国的にも有名な「あきたこまち」などの稲作が盛んですが、その生産統計上の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 秋田県公立入試 類似）

1. 大都市への出荷を目的とした施設園芸農業が中心で、米よりも花きや工芸作物の生産に力を入れている。
2. 冷涼な気候を利用したりんごなどの果実栽培に特化しており、県全体の農業生産額の半分以上を果実が占めている。
3. 広大な土地を活かした大規模な畜産業が最も盛んで、米の生産額よりも豚や鶏などの畜産の生産額が大幅に上回っている。
4. 農業生産額全体に占める米の割合が非常に高く、米を主軸としながら野菜や畜産を組み合わせた生産が行われている。

問9　岩手県東部の三陸海岸南部に見られる、海岸線が複雑に入り組んだ「リアス海岸」と呼ばれる地形が、この地域の産業や生活に与えている影響として正しいものはどれですか。（2023年 静岡県公立入試 類似）

1. 波が穏やかな深い入り江が多いため、古くからカキやワカメなどの養殖業や、天然の良港を利用した漁業が盛んに行われている。
2. 内陸の盛岡市から奥羽山脈を越えてすぐに海岸へ到達できるため、内陸の工業製品を輸出するための巨大なコンテナターミナルが各地に整備されている。
3. 平坦な土地が海岸線まで広く続いているため、大規模な機械化農業が行われ、東北地方最大の穀倉地帯となっている。
4. 山地が海に迫り平地が少ないものの、海岸線が直線的で水深が浅いため、大規模な埋め立てによる重化学工業地帯の形成に適している。

問10　東北地方の農業産出額の構成について、人口が最も多い県の特徴を説明したものとして適切なものはどれですか。（2022年 埼玉県公立入試 類似）

1. 漁業生産量のみが極端に多く、農業産出額はほとんどない。
2. 人口が少ないため、農業産出額の中で米が占める割合は極めて低い。
3. 米の産出額が果実の産出額を大きく上回っている。
4. 果実の産出額が米の産出額を上回っている。

問11　日本の人口構成に関する統計において、1980年と比較した人口比率が約93%まで減少し、65歳以上の人口割合が約40%に達している一方で、15歳から64歳の生産年齢人口の割合が他地域に比べて著しく低くなっている秋田県のような地域で、現在直面している課題として最も適切な説明はどれですか。（2025年 愛知県公立入試 類似）

1. 都市部からの人口流入が急激に進むことで、住宅不足や交通渋滞などの都市問題が発生すること
2. 年少人口が増加することで、義務教育に必要な学校施設の不足が深刻な問題となること
3. 社会を支える労働力となる生産年齢人口が減少し、社会保障などの負担が相対的に大きくなること
4. 若年層の労働力が豊富になることで、製造業を中心とした第2次産業の経済成長が加速すること

問12　山形県の内陸部に位置する盆地において、さくらんぼなどの果樹栽培が盛んに行われている理由として、自然環境の特色を説明した記述として最も適切なものはどれですか。（2019年 鳥取県公立入試 類似）

1. 冬の降雪量が非常に多く、年間を通じて豊富な地下水が果樹の成長を支えているため。
2. 「やませ」と呼ばれる冷たく湿った北東風の影響により、夏でも気温が上がらず冷涼であるため。
3. 盆地特有の気候により、夏の昼と夜の気温差が大きく、果実の糖度が高まりやすいため。
4. 最上川が運ぶ肥沃な土砂が堆積した平坦な地形で、大規模な機械による自動化が容易なため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 冬の降水量は季節風の影響を受ける秋田市の方が多く、夏の平均気温はやませの影響を受ける宮古市の方が低い。	秋田市は冬に北西の季節風の影響を受けて降水量（降雪量）が多くなります。一方、宮古市は夏に冷たく湿った風（やませ）が吹き込むため、奥羽山脈の西側にある秋田市に比べて夏の平均気温が低くなる傾向があります。
問2	答え 4 仙台市	宮城県の県庁所在地は仙台市であり、東北地方最大の人口を抱える広域中心都市（地方中枢都市）です。都道府県名（宮城県）と県庁所在地名（仙台市）が異なるケースは、全国の約4割の都道府県で見られます。選択肢にある「宮城市」という都市は実在しません。
問3	答え 1 冷害	「やませ」が吹くと、奥羽山脈に風が遮られることで太平洋側の地域に霧や雲が停滞し、夏の気温が上昇しなくなります。稲の開花や結実の時期に気温が低い状態が続くことで、米が十分に実らない現象を冷害と呼びます。これに対抗するため、東北地方では低温に強い品種（耐冷性品種）の開発や、水田の水を深く張って稲の根元を保温するなどの対策が行われています。
問4	答え 3 北上川	この河川は岩手県から宮城県にかけて流れる、東北地方で最も長く、流域面積も最大の河川です。山形県を流れ日本海に注ぐ最上川や、福島県から宮城県を流れる阿武隈川と混同されやすいため、源流のある県や注ぐ海の違いを整理しておくことが重要です。
問5	答え 2 農薬の使用を減らして安全性を向上させ、生産者の情報を消費者に公開することで信頼を獲得する。	日本の農家は、価格面で有利な輸入農産物に対抗するため、品質や安全面での「付加価値」を高める戦略をとっています。具体的には、農薬の使用を制限して「安全性の向上」を図ったり、誰がどのように作ったかという「生産者情報」を明示したりすることで、消費者から「安心・安全な国産品」としての信頼を得る、いわゆる農産物の差別化が進められています。
問6	答え 4 湿った北西の季節風が奥羽山脈にぶつかり、日本海側に雪を降らせるため	日本の背骨にあたる奥羽山脈は、冬に日本海を渡って湿気を蓄えた北西の季節風を遮る役割を果たします。この湿った風が山脈にぶつかって上昇することで、日本海側に多くの雪をもたらします。一方で、山脈を越えて太平洋側に吹き降りる風は乾燥しているため、宮古市などでは秋田市に比べて降水量が少なくなります。
問7	答え 2 寒流が運ぶ豊富な栄養分と暖流の温暖な環境により、魚の餌となるプランクトンが大量に発生するため。	親潮などの寒流は栄養分を多く含んでおり、黒潮などの暖流と交わることで、太陽光を受けてプランクトンが盛んに増殖します。この大量のプランクトンを求めて寒流系・暖流系双方の魚が集まるため、豊かな漁場となります。
問8	答え 4 農業生産額全体に占める米の割合が非常に高く、米を主軸としながら野菜や畜産を組み合わせた生産が行われている。	秋田県は全国有数の米どころであり、農業生産額において米が占める割合が非常に高いのが最大の特徴です。単に米だけを生産するのではなく、農業経営の安定のために野菜や畜産なども取り入れた「複合経営」が行われている点も重要です。他の選択肢にあるような畜産特化型（鹿児島県など）や果実特化型（青森県など）とは統計上の数値構成が明確に異なります。
問9	答え 1 波が穏やかな深い入り江が多いため、古くからカキやワカメなどの養殖業や、天然の良港を利用した漁業が盛んに行われている。	リアス海岸は、山地が沈み込んで形成されたため、水深が深く波が静かな入り江が多く存在します。この地形的利点を活かして、岩手県沿岸部では古くから漁業や養殖業が発展してきました。一方で、平地が少ないために大規模な都市や工場の建設には制約があり、内陸部と沿岸部を結ぶ交通網の整備には北上山地を越える必要があるという地理的背景があります。
問10	答え 3 米の産出額が果実の産出額を大きく上回っている。	東北地方で人口が最多である宮城県は、広大な平野部を活用した米作りが盛んな地域です。山形県や福島県のように果実の産出額が比較的高い水準にある県とは対照的に、宮城県の農業産出額の内訳では、果実よりも米が占める割合が圧倒的に高いという構造的な違いがあります。
問11	答え 3 社会を支える労働力となる生産年齢人口が減少し、社会保障などの負担が相対的に大きくなること	秋田県は日本国内でも特に高齢化が進行しており、65歳以上の割合（高齢化率）が非常に高い一方で、経済活動の中心となる15歳から64歳の「生産年齢人口」が減少しています。このような少子高齢化が進行した社会では、高齢者を支える現役世代の負担が増し、社会保障制度の維持や地域産業の労働力不足が大きな課題となります。
問12	答え 3 盆地特有の気候により、夏の昼と夜の気温差が大きく、果実の糖度が高まりやすいため。	山形県の内陸にある盆地では、周囲を山に囲まれているため、夏の日中は熱がこもりやすく高温になりますが、夜間は放射冷却の影響で気温が下がります。この昼夜の寒暖差が、植物が光合成で作った栄養分を効率よく糖分として蓄える働きを助けるため、甘くて質の高い果実が育ちます。なお、「やませ」の影響を強く受けるのは主に太平洋側（岩手県や青森県など）の地域です。